



第78回静岡県書きぞめ展西部地区で

静岡県知事賞を受賞

すなもと たかゆき
砂本 剛幸さん



◀静岡県知事賞を受賞した作品



PROFILE

すなもと たかゆき(7歳・大山)
好き嫌いなくなんでも食べる。特に母のお手製スープが好物。
得意科目は図画工作で、工作が得意。

第一小学校1年生の砂本剛幸さん(大山)が「第78回静岡県書きぞめ展西部地区」小一の部で最高位となる静岡県知事賞を受賞した。幼年から大人までの出展数は7947点で、県下最大規模のコンクール。その中で堂々の最高位である。剛幸さんは「すごくうれしかった。書道をやっている良かった」とこり。

まっすぐな向上心

剛幸さんが書道始めたのは5歳のとき。「字を書くことが好きだったし、筆で書くのが楽しそうだったから」と話す。池新田地区の「ひよこ書道教室」に、月4回通い、硬筆と毛筆をそれぞれ2回ずつ学んでいる。目標は「漢字などの難しい字をきれいに書けるようになること」。そのため「たくさん練習する」と力強く語る姿からは、まっすぐな向上心が伝わってくる。書道の難しいところを聞くと「字のバランスをとること、書き始め(始筆)の位置」と真剣な表情に変わる。

指導者の宮本里美さんは、「剛幸くんは観察力や理解力が

があり、お手本をじっくり見て書ける。筆を持っている剛幸くんが緊張感に包まれているのは、書道としっかり向き合っているからでしょう。今回出展した作品も迷いのない字を書き上げていました」と笑顔をみせる。

好奇心から広がる可能性

剛幸さんは好奇心旺盛で、書道のほかにも英語やそろばん、ピアノ、サッカー、体操にも挑戦中。平日はほとんど毎日習い事があるが、「どれも楽しい」と元氣いっぱいだ。両親は「剛幸がやりたいことなら」と全力で応援。そんな家族の支えも、大きな力になっている。

剛幸さんの将来の夢は「自衛隊に入って飛行機に乗ること」。国や人を守る姿がかっこいいと思ったからだという。一方で「ドラッグストアの店員さんにもなりたい」とはにかみ、子どもらしい可愛いらしさをみせる。

剛幸さんが力いっぱい書く一筆の向こうには、まっすぐな努力ときらきらとした未来が広がっている。